

令和7年5月8日

令和6年度 広瀬こども園 自己評価

広瀬こども園
園長 武内秀樹

お寺の園として日常の中でお祈りや感謝を感じ取る機会を設け「おかげさま」の心に子どもが触れることが出来る機会をもっている。

保育計画を作成し計画に沿って保育を行っており、PDCAサイクルを意識し計画と実際の活動内容が連動していると職員が感じている。

幼保連携認定こども園教育・保育要領を参考にしながら保育を進めているとは言い難く、幼保連携認定こども園教育・保育要領を参考にし感覚や経験のみではなく、根拠が説明できる保育を進めていけるように研修を行っていく必要がある。

運営管理における各種マニュアルや規程の共有を進めていきたい。

指示命令、禁止語を使わない様に意識し、子どもたちにどのような言葉を用いて伝えていくようにしたら良いのか考え伝えていくようにする事、常に子どもを中心に考え、子どもにとって幼児期にふさわしい生活の中で、発達に必要な体験を積み重ねていくことができるよう努めていくこと。子どもたちを取り巻く状況や、これからの幼児教育の方向を見据え、現場に求められている社会のニーズを十分に把握した上で、幼児期の教育・保育の基本を捉え直すとともに、具体的な手だてを考え、質の高い教育・保育の実現にしっかりと取り組んでいくようにしていきたい。

平成6年度 保育教諭自己評価

1) 保育の理念・保育観・資質向上		はい	いいえ	どちらとも いえない
1	すべての子どもについて、一人ひとりの存在と人権を尊重している。	24		
2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生命と健全な発達を保障する事が重要な使命だと理解している。	24		
3	子どもの生涯の基礎を養う極めて大切な役割を担っていると理解している。	23		1
4	自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることができる。	24		
5	上司、同僚からの意見を感情的にならず謙虚に聞き、反省し、自身の保育に反映することができる。	23		1

2) 保育計画・指導計画		はい	いいえ	どちらとも いえない
6	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考に作成している。	15	5	4
7	子どもの意欲を誘う環境構成が十分考慮されている。	20	2	2
8	計画の点検・評価を行い、その結果を次の計画に生かしている。	20	3	1
9	複数担任の場合は、よく話し合いお互いの考えを十分に理解したうえで計画を作成している。	19	3	2

3) 保育・教育		はい	いいえ	どちらとも いえない
10	子どもの発達に応じた食具（食器・箸・スプーンなど）を使用できている。	22	1	1
11	離乳は、保護者と連携し、発育・発達の段階に応じて進めている。	21	1	2
12	特別な配慮が必要な子ども（体調不良・食物アレルギー・障害など）の状況に合わせた食事を提供している。	24		
13	出生時の状況、成育歴を把握し、子どもの背景や保護者の状況を理解している。	24		
14	子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員間で確認している。	24		
15	乳児や未満児の午睡時など、仰向けに寝かせ、睡眠中の姿勢、掛布団呼吸等の確認をしている。	24		
16	子どもの背景に配慮しながら個別対応の努力や工夫をしている。	24		
17	楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように配慮している。	23	1	

		はい	いいえ	どちらともいえない
18	子ども同士がぶつかり合うときに、危険のないように配慮し発達の程度や心の動きを考えながら見守るなどの対応ができる。	24		
19	自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的に話しかけている。	24	1	2
20	家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	22	1	1
21	子どもとの信頼関係を構築できるよう努力している。	24		
22	子どもの気持ちに寄り添い支えている。	24		
23	子どもが自己表現できるように接している。	24		
24	具合の悪そうな子どもが、自分から体調不良を訴えられるよう優しく問いかけることができる。	24		
25	季節感が味わえる環境を整えている。	21	1	2
26	子どもが主体で食事を美味しく楽しく味わえるように工夫している。	21	2	1
27	行事食を通して、季節を感じたり、季節の食材を知らせている。	24		
28	排泄や着替えなど、子どもの尊厳に配慮した対応をしている。	22	2	
29	子どもの感性や感動を共有しとらえることができている。	17	7	
30	子どもが自由に取り出して遊べるように、遊具・用具などの構成を整えている	23	1	
31	言葉を豊かに正しく身に着けることができるよう努力している。	24		
28	子どもとあたたかな言葉づかいでゆっくり話し、伝え合うようにしている。	24		
29	指示命令・禁止語を使わないようにしている。	20	3	1
30	明らかに危険な行動には理由を説明してはっきりと言葉で制止している。	24		
31	非常災害時に何をしなければならぬか理解している。	23		1
32	障がいを持つ子供であっても、共生・共育の観点を持ち保育をするようにしている。	24		
33	子どもの育ちを保護者と一緒に考え、喜び合うことができている。	24		
34	子どもの様子など必要に応じて保護者に伝えることができている。	24		
35	園長、事務、主幹、給食職員、と連携して業務にあたることができている。	24		
36	クラスの備品を責任をもって毎日点検している。	16	7	1

給食職員自己評価

1) 園の理念、目指す子どもの姿に基づいた「食育の計画」を作成しているか。

	はい	いいえ	どちらとも いえない
1 保育所・園で作成された保育課程・指導計画の中に「食育の計画」が位置付けられている	5		
2 「食育の計画」が全職員で共有されている。	5		
3 食に関する豊かな体験ができるように「食育の計画」が作成されている。	5		
4 食育の計画に基づいた食事が提供され、体験が実践され、その評価改善を行っている。	5		

2) 調理員（栄養士・調理員）の役割が明確になっているか。

	はい	いいえ	どちらとも いえない
5 調理員が、子どもの食事の状況をみている（保育室へ見に行っている）	5		
6 調理員が、保育内容を理解し考慮した上で、献立作成や食事の提供を行っている。	4	1	
7 喫食状況、残食（個人と集団）などの評価をふまえ調理を工夫している。その内容が記録に残されている。	5		

3) 乳幼児期の発育・発達に応じた食事の提供になっているか。

	はい	いいえ	どちらとも いえない
8 年齢や個人差に応じた食事の提供をしている。	5		
9 子どもの発達に応じた食具（食器・箸・スプーンなど）を使用できている。	5		
10 離乳は、保護者と連携し、発育・発達の段階に応じて進めている。	5		
11 特別な配慮が必要な子ども（体調不良・食物アレルギー・障害など）の状況に合わせた食事を提供している。	5		

4) 子どもの生活や心身の状況に合わせて食事が提供されている。

	はい	いいえ	どちらとも いえない
12 子どもが食事をする場所は衛生的に管理されている。	5		
13 子どもが落ち着いて食事のできる環境になっている。	5		
14 子どもの生活リズムや日々の保育の状況に合わせて、柔軟に食事の提供をしている	5		

5) 子どもの食事環境や食事の提供方法は適切か。

	はい	いいえ	どちらとも いえない
15 衛生的な食事の提供を行っている。	5		
16 友達と、一緒に食事を楽しんでいる（時には、大人と一緒に）。	5		
17 食事のスタイルに工夫がされている（時には、外で食べるなど）。	5		
18 温かい物、できたての物など、子どもにとって最も良い状態で食事を提供している。	5		

6) 保育所の日常生活において、「食」を感じる環境が整っているか。		はい	いいえ	どちらともいえない
19	子どもが食事をつくるプロセスにふれ、調理をする人の姿を見ることができる。	5		
20	食事を通して五感(見る・聞く・匂う・味わう・触れる)が豊かに育つよう配慮している。	5		
21	身近な大人や友達と「食」が話題になるように環境を整えている。	5		
22	食材にふれる活動を取り入れている	5		

7) 食育の活動や行事について、配慮がされているか。		はい	いいえ	どちらともいえない
23	食材について、学ぶ機会をつくっている。	4		1
24	トウモロコシの皮むきや野菜の収穫など、子どもが「食」に関わる活動を取り入れている。	5		
25	食の文化が継承できるような活動を行っている。	4		1
26	行事食を通して、季節を感じたり、季節の食材を知らせている。	5		

8) 食を通した保護者への支援がされているか。		はい	いいえ	どちらともいえない
27	一人ひとりの家庭での食事の状況を把握している。	4	1	
28	乳幼児期の「食」の大切さを、おたよりを通じて保護者へ伝えている。	4	1	
29	保育所で配慮していることを、展示食や試食会を通して伝え、関心を促している。	2	3	
30	レシピや調理方法を知らせる等、保護者が家庭でもできるような具体的な情報提供を行っている。	5		
31	保護者の不安を解消したり、相談に対応できる体制を整えている。	5		
32	保護者の不安を解消したり、相談に対応できる体制を整えている。	5		

9) アレルギー対応。		はい	いいえ	どちらともいえない
33	アレルギーに対する主治医の意見書を徴したうえで、保護者との面談を年1回以上設けている。	5		
34	代替食や食器の工夫、他職種連携など、アレルギーがあっても安全に給食を摂ることができるように配慮されている。	5		